

百舌鳥・古市古墳群のあらまし



百舌鳥古墳群



造営当時の百舌鳥古墳群



大阪湾を見下ろす台地上に造られる。

南西の堤上から見た仁徳天皇陵古墳

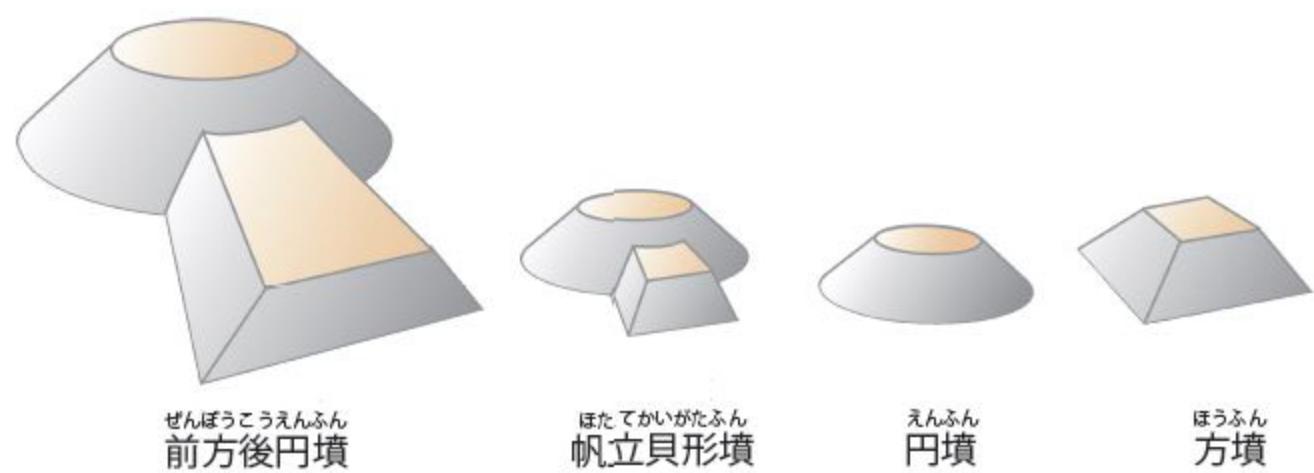


堤上の形象埴輪群

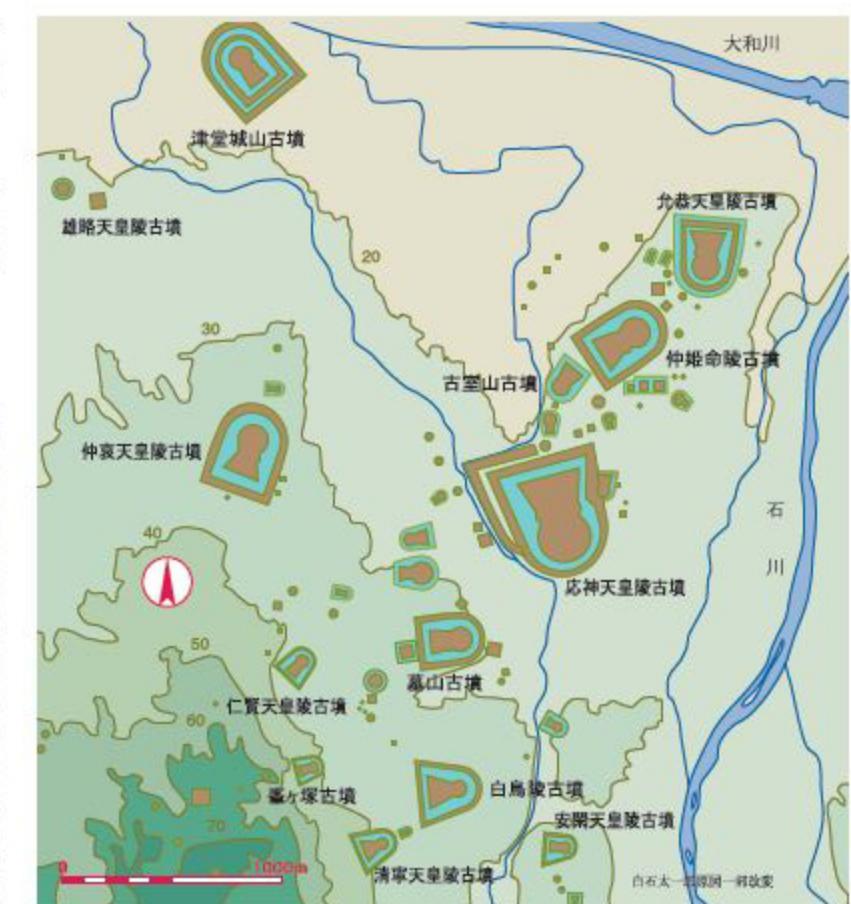
百舌鳥・古市古墳群の世界遺産的価値

百舌鳥・古市古墳群は、古代日本の王家の墓域であり、仁徳天皇陵古墳や応神天皇陵古墳など、世界的にも突出して巨大な王墓を数多く含むことが特徴です。日本独自の形状である前方後円墳や帆立貝形墳など、多様な形状・規模の古墳が同時に数多くつくられています。

墳墓の形状や規模によって被葬者の地位や身分を示すという制度は世界的に見ても極めて稀有(まれ)であり、古墳時代の文化、社会秩序を端的に表すものとして貴重な遺産です。

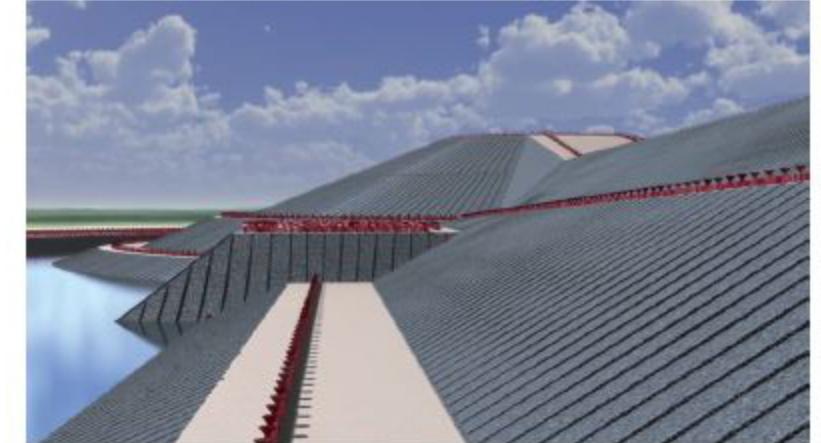


古市古墳群は藤井寺市から羽曳野市にかけて、東西・南北約4キロメートルの範囲に広がる古墳群です。墳丘長400メートルを超える巨大な前方後円墳の応神天皇陵古墳から、一辺10メートルに満たない小型方墳まで120基を超える様々な墳形と規模の古墳からなります。現存する45基のうち、墳丘長200メートルを超える巨大な前方後円墳は7基も含まれています。



古市古墳群

仁徳天皇陵古墳の墳丘



葺石と赤く塗られた円筒埴輪列

仁徳天皇陵古墳前方部につくられた埋葬施設



石室と石棺および金メッキされた甲冑